

第5章 呑川の水害

1. 呑川の水害の歴史

(1) 水田の多かった頃の水害

川には水害がつきものです。これは江戸時代以前からも明治になってからも変わりはありません。江戸時代の呑川は、用水として水田の水に使われていました。呑川は上流から下流まで水田がありました。大雨が降ると、たちまち呑川は溢れます。しかしそれほど大きな川ではない呑川では、雨が止むと水は早く引きました。時には家の中まで水が入ることはありました。家を少し高いところに造ったり、舟を用意して置いて余程の水害の時には避難することもあったそうです。

呑川の流域は江戸時代から明治時代（1900年度頃）までは水田や畑が多く、その水は用水として米作りに使われていました。上流では畑が多く降った雨は浸み込んで、大雨の時だけ呑川にたくさん流れ込みました。水害は起こりましたが、呑川付近には水田が多く、家が少なかったため大きな被害は出ませんでした。

(2) 明治・大正時代の水害の変化

・水害が増える

明治時代になると、呑川の周りの様子が大きく変わりました。蒲田では、鉄道が呑川の上を通過するようになりました。東京が首都となり、住宅が次々に増えてくるようになると、呑川の周りも大きく変わっていきました。水田も大正時代（1912年から）少しずつ減っていきました。関東大震災のあった1923（大正12）年以後は、呑川の上流では住宅が、下流では工場も増えました。

また、水田だったところが畑になったり住宅地になって、より多くの人に住むようになりました。雨が降ると水田や畑が多かった頃は、土に水が浸み込むため急に大水になることは少なかったのですが、水田や畑が減り住宅が増えると、降った雨は呑川にどっと集まるようになりました。明治より大正、そして昭和になると、今までよりずっと水害が増えました。水害の多くは家の中まで水が入る床上浸水という被害です。

(3) 大正末期からの住宅化による影響

・水害を防ぐ努力

関東大震災の前後から呑川沿いの町では「耕地整理」という街づくりが進んでいました。くねくね曲がった道を、真っすぐにしたり、広い道を造る工事があちこちで進みました。

このとき池上町では、くねくね曲がって流れていた呑川をなるべく真っすぐにし、川沿いに道を造りました。川底も少し深くして水が早く流れるようにしました。といっても呑川に子供達が入って魚取りをしたりできる深さでした。呑川は水田のための用水としてではなく、降った雨水を早く流す排水路に変わっていったのです。

大正末期から昭和になると上流にも住宅地が増え、下流の池上・蒲田・糎谷などでは水田がなくなり、住宅や工場が出来始めました。大雨が降ると上流では畑などに浸み込んでいた水が少なくなり「どぶ」（下水）を伝わってどっと呑川に流れ込みます。下流でも呑川に流れ込んでいた沢山の支流（主に六郷用水からの排水）も、どっと流れ込みます。そのため1925（昭和元）年からの昭和時代には今までより住宅の床上浸水が多くなり、広がっていったのです。

(4)水害対策で呑川改修始まる

・床上浸水 3000 戸

1925（大正 14）年の夏、大きな水害がありました。池上から蒲田にかけて床上浸水が 3000 戸も出るほどの水害でした。その頃の荏原郡町村議会の議員さんたちが 11 月、呑川を管理していた東京府に対し「呑川の河川改修を急いでしてもらいたい」と決議をし、12 月の東京府の議会でも「早く呑川を改修すること」が決められました。実際の工事はすぐには始まりませんでした。

水害をなくそうとして地域の人々は、川を管理していた東京府に対し何度もお願いをし、お金（予算）を出して呑川を改修してほしいと努力していました。（※ 1924（大正 14）年荏原群町村会議員連盟「土曜会」が改修は東京府が資金を出すべきという決議をする。※同じ年、蒲田町会でも同じことを決議）

・中土手事件

呑川が用水として使われていたとき、池上の上堰橋付近から今の西蒲田の双流橋付近まで呑川を 2 つに分ける水路が川の中にありました。中土手と言っています。二つに分けた一方は蒲田方面に流れ、もう一方は大森方面に分けていたのです。水田がなくなると下流で用水を分ける必要がなくなります。また土手があることが水の流れを邪魔するため、大雨が降ると上流の池上町側の水害がひどくなるのでした。

このため池上町では早くからこの土手をなくしましたが、下流の蒲田町側はそのままになっていました。「土手を早く取り払ってほしい」と何回も頼んでいましたが、蒲田町側はそのままにしていました。1931（昭和 6）年 10 月 4 日、大雨が降ったとき、池上町の人々は蓑傘をつけて川の中に入り、この土手を取り払ってしまいました。池上と蒲田の町民が大勢出て、大喧嘩になろうとしましたが、警察が乗り出して騒ぎを鎮めました。蒲田町もまもなくこの事実を認めました。

(5)昭和の呑川改修で水害を防ぐ努力

・町でお金を出して改修

東京府にお願いしてもすぐには呑川は良くなりないと、蒲田町では町と耕地整理組合がお金を出し合って改修する工事も進めました。工事は呑川の川幅を広げ、兩岸は板の柵（護岸）を打ち込むという工事でした。

呑川の幹線（本流）だけでなく、支流・呑川に流れ込む排水路や用水だった所なども同時に工事を進めました。蒲田町だけでなく大森町とも一緒になり工事は進められました。工事は 1932（昭和 7）年まで続けられ、4 割を残してほぼ完成し、残りは東京府が引き継ぐことになりました。この工事の結果、少しは被害を防ぐことはできましたが、水害が無くなったわけではありませんでした。

・新呑川を掘る

住民の強い願いだった東京府による工事が 1931（昭和 6）年 12 月の議会で決定されました。当時のお金で 190 万円を事業費として五か年かけて改修するというものでした。（第一期工事）

工事区間は池上養源寺橋から河口までおよそ 5 km、川幅 12.12m から次第に広くし夫婦橋付近では 27.27m にし、夫婦橋より下流に一直線に羽田の方へ流れる新しい川を掘るというものでした。

今迄の曲がりくねった呑川はそのまま残し、新呑川は一気に海まで流すというのです。水路には羽田の方にあった藤兵衛滞という、海苔舟などが使っていた水路を活かして使うことにしました。

ぐっと広くなった川幅の新呑川の工事は、川幅を広げるだけでなく、護岸には鉄筋コンクリートを使い、新しい橋も造る大工事でした。

呑川の下流では東京湾で作っていた海苔の船を利用していましたが、新呑川ができると船着き場や荷物を上げる場所がなくなってしまいます。海苔業者たちは、改めて東京府に対し海苔の「てんま船」の引き上げと、荷上げ場を造ってほしいと請願書を出しました。この結果、夫婦橋下と呑川新橋下の二か所に共同荷揚場ができました。今この荷揚場の跡は、呑川に近づくことのできる夫婦橋公園と大森南一丁目公園になっています。

第一期工事は1935（昭和10）年に完成し、引き続き夫婦橋から養源寺橋まで、約2.5kmが第二期工事として始まりました。工費は166.7万円、護岸には板柵も使われました。

1936（昭和11）年から工事は始まり完成したのは1941（昭和16）年でした。全体の工事が終わるまで10年もかかり、呑川下流の風景もすっかり変わりました。

ちょうどこの頃は、日本が中国と日中戦争をしていた時期で、完成した1941年には太平洋戦争も開始され、お金のかかる大工事はしにくい時代になっていました。工事がもう少し遅れたら戦争のために費用が足りなくなったことでしょう。これで水害はなくなると思っていた人々はひと安心しましたが、1944（昭和19）年10月の台風で大森・蒲田地区で床上浸水の被害が出るということもあり、不安は無くなったわけではありませんでした。

2. 呑川災害史

(1) 呑川水害・改修に関する年表

呑川改修・水害関係年表

西暦	元号年	事 項
1872	明治 4	北蒲田村ほか14か村 鉄道工事にあたって呑川改修の嘆願書提出 品川県鉄道係へ 木製鉄道橋完成
1907	40	多摩川水害で大森まで出水
1910	43	8月 多摩川水害で再度出水 12月 東海運線盛り土計画に住民反対 京浜電車の線路をこわせと住民さわぐ
1917	大正 7	このころより跡地整理はじまる
1919	8	都市計画法施行
1923	12	関東大震災
1925	14	呑川氾濫 浸水3000戸 11月、荏原郡町村会議員連盟「呑川その他の河川改修費を東京府の支弁とし、改修を早急に実施せよ」との決議 12月、蒲田町会「呑川府費支弁費に関する決議」 東京府会通過 2年後実施されず。
1931	昭和 6	10月 池上町 蒲田町の中土手撤去
	6	呑川改修工事予算 東京府会通過 5か年計画で改修はじまる
1932	7	新呑川開削工事はじまる 共同工場設置の陳情
35	10	共同工場完成 当初は海苔業者のてんま船用に利用したが、後に工場等でも利用するようになる。
38	13	豪雨・台風で各地に出水
39	14	東京市による改修事業 16年まで 河口～あやめ橋
41	16	7月 台風による豪雨で洗足池、呑川、内川氾濫 住民本門寺に避難
44	19	東京都による仮改修始まる 24年まで
47	22	キャスリン台風による氾濫
49	24	キライ台風による氾濫
50	25	豪雨 5000戸浸水
58	33	狩野川台風による氾濫 家屋浸水多数
59	34	伊勢湾台風による氾濫 家屋浸水多数
60	35	久が原・女塚ほか各所に排水場できはじめる 40年まで
64	39	都中小河川緊急3か年整備計画による改修 拡幅、掘り下げ コンクリート化
65	40	台風16・17号による氾濫
72	47	50mm/h対応の河川改修はじまる。
81	56	集中豪雨による 床下浸水650戸
82	57	雨水を石川橋より多摩川へ分水する中原幹線が完成する。
86	61	50mm対応の護岸改修がほぼ完成する。また下流の高潮対策としての防備堤が完成した。 大田区呑川緑道整備計画はじまる
89	平成 1	東京都総合治水対策 よみがえれ！清流 パンフレット発行
95	平成 7	幕合浄水場より下水処理水流しはじめる
98	平成10	高潮対策として投函め工事が夫木橋下流について完成。(橋取り付け部をのぞく)
2001	平成13	旭橋下流に22隻の係留施設ができる。

この年表は「呑川は流れる」・「大田区史下巻」・「東京都第二建設事務所事業概要」より大坪庄吾が作成しました。

(2) 過去の水害実績一覧

木下 武雄

呑川では過去にどのような水害があったのか。

1) 東京都水害記録（呑川流域）

1974（昭和 49）年より 2013（平成 25）年まで 40 年間

表 1A（溢水は河川から溢れた水による水害で、内水は降った雨が付近に滞留しているための水害）

呑川水害記録表（前半20年）				
年月日	気象現象	床上浸水地	床上浸水棟	水文現象
昭和49.7.7	台風8号	北千束1,2、上池台3、南雪谷5、仲池上2、	17	溢水
〃 49.7.10	集中豪雨	上池台3	1	〃
〃 50.9.5	〃	上池台3,5、仲池上1	75	〃
〃 52.8.17	〃	東糎谷5	2	内水
〃 53.4.6	〃	蒲田1,3,5	13	溢水
〃 54.3.24	〃	東雪谷3、新町1	9	内水
〃 56.7.22	〃	中馬込2,3、蒲田1	3	〃
〃 57.9.12	台風18号	上池台3,5、大岡山2、緑が丘3	7	〃
〃 57.11.30	集中豪雨	中根 2	2	〃
〃 60.7.14	〃	東が丘2、柿の木坂1,3、八雲1,2,3,5、中根1,2、平町1,2、大岡山1,2、緑が丘1,3、南千束1,2、上池台3,5、東雪谷5、石川町2、仲池上1,2、久が原1、南馬込5、東馬込1、西馬込2、北馬込2、中馬込2、池上1,2,3,5、西蒲田1,4、南蒲田2、蒲田1、中央1,3,4、山王3、深沢1,3,4,6、新町2、駒沢4,5、等々力8	328	〃
〃 62.7.25	〃	自由が丘1、緑が丘2、八雲2、平町2、中根1,2、大岡山1、池上 7、中央5、上池台3,5、東雪谷2、南千束1、鶉ノ木1、南久が原2	41	〃
〃 62.8.24	〃	自由が丘1、平町2、大岡山1、中馬込2、東馬込1、中央4、南雪谷3	17	〃
〃 63.8.11	〃	下丸子	1	〃
平成元年8.1	雷雨	池上1,2,3,7、中央5,7、南千束2、	5	〃
平成2.9.13	秋雨前線	中央5,7,8、池上1,2,3,7,8	10	〃
〃 2.9.30	台風20号	南千束2	1	〃
〃 3.9.18	台風18号	池上3,6、東雪谷5、東糎谷2,4,5、西糎谷1,2	6	〃

東京都水害統計によって、呑川流域で 1974（昭和 49）年から 2013（平成 25）年までの、40 年間の床上浸水件数は 36 件です。

台風の来襲はこの 40 年で 9 回、台風以外は、大部分集中豪雨と記されています。

床上浸水全棟数は全 40 年で 1474 棟、前半 538 棟、後半 936 棟、後半で 2 倍近くになります。

これは、100 棟以上の床上浸水が後半 20 年で 3 件も発生したためです。

表1B

呑川水害記録表(後半20年)			
年月日	気象現象	床上浸水地	床上浸水棟
平成6.8.20	集中豪雨	深沢4、南千束	9
// 8.9.22	台風17号	南千束	1
// 9.9.3	集中豪雨	中根2、東が丘1	2
// 10.8.3	集中豪雨	中央、池上	15
// 11.7.13	//	池上3	2
// 11.8.29	//	自由が丘1、中根2、八雲5、池上1,5,6,7、中央1,3,4,5,7,8、山王1,2,3,4、東馬込1,2、西馬込2、南馬込1,2,3,4,5,6、北馬込1,2、中馬込2、石川町2、上池台3,5、西蒲田5、蒲田2	462
// 11.10.27	//	東馬込1	3
// 12.7.7	台風3号	北糀谷1	3
// 13.6.7	集中豪雨	鶉ノ木1、南久が原2、下丸子1、千鳥1,2,3、大森東4、蒲田本町2	16
// 14.8.2	//	八雲5、駒沢3	6
// 14.8.4	//	中根2、八雲1、柿の木坂2、中馬込2、上池台3,5、中央4、西馬込2、南馬込1,2,3、山王1,2,4、東馬込1,2	174
// 16.10.9	台風22号	上池台3,5、東雪谷3、南千束1、駒沢3、深沢4	30
// 16.10.20	台風23号	石川町2、上池台2,3,5、駒沢3	51
// 19.9.11	集中豪雨	千鳥	1
// 21.8.24	//	深沢4	1
// 22.9.8	台風9号	深沢5	1
// 22.9.15	集中豪雨	駒沢5	1
// 22.12.2	//	深沢2.4	2
// 25.7.23	//	駒沢3、桜新町1,2、新町1,2、深沢4,5,6、上池台2,3,5、石川町2、大森北1、東雪谷3、北千束1、柿の木坂1、中根1,2、東が丘1,2、八雲1,2,3,5、緑が丘1	156

(表2)

	西暦 年	件数	台風	床上浸水(棟)	棟数別分布(件)			
					10~20	21~50	51~100	101~
前半	1974~1993	17	4	538	4	1	1	1
後半	1994~2013	19	5	936	2	1	1	3
計	1974~2013	36	9	1474				

そこで河川別に呑川を抽出すると、40年間で、51洪水です。そのうちの床上浸水が1棟でもあったのは36洪水で、1年にほぼ1回床上浸水が発生していることになります。

その中で呑川流域では、1洪水で床上浸水100棟以上は上に掲げた1985年7月14日、1999年8月29日、2002年8月4日、2013年7月23日の4洪水で、ほぼ10年に1回の割合です。

東京都の河川整備計画では1/20、つまりほぼ20年に1度の確率の降雨を想定しています。これに対し、10年に一度となれば呑川は計画に比べ安全度が低いと言わざるをえません。ここでは約10年に1回の割で呑川流域では100棟以上の床上浸水が発生していることに注目しましょう。

内水とは河川からの越水、氾濫ではなく、付近の降雨によって地上に雨水が溜り、床下浸水を発生し、さらに床上浸水にまで発展するものです。

呑川流域の水害記録が1978（昭和53）年以降内水であり、呑川河道からかなり離れた町丁目にも内水水害が記録されていますから、呑川流域の水害は呑川からの越水氾濫は40年間なかったと判断されます。

この場合の内水発生が、暗渠化された目黒区、世田谷区でも発生しているところを見ると、暗渠化は水害を防ぐ手段ではなく、むしろ河道の水位が分からないことから、大雨の時、突然の浸水による混乱を起こす可能性もあります。

3. 最近の呑川の洪水の特徴

(1) 原因現象として、古くは台風が恐れられていましたが、ここ40年間の床上浸水36洪水の中で台風によると判断されたものは9洪水しかなく、あとはすべて集中豪雨とされています。

それは他資料と対照すると前線、雷雨、低気圧などによる集中豪雨です。床上浸水100棟以上の4大洪水には、台風によるものは皆無です。

(2) 浸水地は町丁目で見ると、目黒区の暗渠化された所で頻発しています。蒲田などの下流域では僅少です。これは暗渠の断面積が小さすぎたからかも知れませんが、河川を暗渠に封じこめれば安心という公式が成り立たないことを示しています。

(3) 東京都建設局ホームページ以外で掲げた水害記録で呑川の近くでの記録はありますが、「呑川」でと特定されたものはなく、また出典によっても、色取りが違うのは致し方ありません。

そのような意味で統計の質が違うことには注意して頂かねばなりません。今後、諸家文書など大田区その他の組織の古文書をひもといて、呑川の水害の歴史を更にあきらかにして、安全安心の呑川を作って行かなければなりません。

(木下 武雄氏 原稿を元に加筆修正・多摩川部分の削除)

4. 呑川洪水の事例

「第二次世界大戦」の影響で河川改修の方針は決まらず、東京では「36答申」が出る迄なおざりにされてきたので、大きな台風がやって来ると呑川流域も打撃的な被害を受けました。

1952 (昭和 27) 年 9 月 台風



呑川は護岸近くまで水位が上がり、あふれそうになり、「妙見橋」(池上)が流されました。今は伐採された「大ケヤキ」のそばに落下した木造の「妙見橋」と、それを支えるクレーンが見えています。

(写真:大坪庄吾氏提供)

1958 (昭和 33) 年 9 月 27 日「狩野川台風」



「伊勢湾台風」は戦後最大の被害をもたらしましたが、呑川流域では「狩野川台風」が最大でした。家々の間に流れるのは「川」ではなく、「旧池上道路(平間街道)」の上を激しい濁流が流れ、人も流されたそうです。

(池上四丁目付近 写真:指田文夫氏 HP より)

1966 (昭和 41) 年 6 月 23 日 台風 4 号



昭和 41 年の「台風 4 号」は「雨台風」と呼ばれ、呑川流域では大田区だけでも 400 所帯が床下浸水の被害を受けた。「大田区」のマークを付けた職員も避難や救助活動に奔走した。

南雪谷三丁目 円長寺橋付近 (写真:大田区提供)

1966 (昭和 41) 年 6 月 23 日 台風 4 号



「台風 4 号」は夜になっても水が引かず、1 階は水浸しで外へ出られず救助艇で 2 階から避難をした。被害者に呼びかけるマイクの音は夜中鳴り響き緊迫した。呑川流域でもこんなことがあった。

南雪谷三丁目 円長寺橋付近 (写真:大田区提供)

わたしたちの都市呑川（表紙）



呑川の会

